

「ゆう活」に関する次官級連絡会議
議事概要

平成30年11月2日(金)
12:38～12:57
官邸4階大会議室

- ※ 女性職員活躍・ワークライフバランス推進協議会（第13回）との合同会議として開催。
- 議題（1）平成30年度ワークライフバランス推進強化月間・国家公務員の「ゆう活」の取組結果について
内閣人事局植田人事政策統括官から説明。
- 議題（2）民間・地方公共団体の「ゆう活」の取組結果について
鈴木厚生労働事務次官及び安田総務事務次官からそれぞれ説明。
- 議題（3）女性国家公務員の登用状況及び国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップについて
内閣人事局植田人事政策統括官から説明。
- 西村内閣官房副長官御挨拶
- ・ 今年の「ゆう活」も、官民を挙げて積極的に取り組んでいただいた。働き方改革を推進していくことは、個人のワークライフバランスを確保する観点からも、労働生産性を向上させる観点からも、大変重要な課題であり、各府省の取組に感謝申し上げる。
 - ・ これまでの働き方改革の上に、今後は、生涯現役社会を目指した改革の検討も進めていくことになる。誰もが能力を発揮できる一億総活躍社会を実現するため、ライフスタイルに合わせた多様な働き方を可能とすることの重要性は、ますます高まっていくと考えられる。
 - ・ 今年の「ゆう活」やワークライフバランス推進強化月間の取組も、国家公務員の業務改善に一定の効果があった。しかし一方で、管理職と非管理職とで受け止めに差があったり、府省間で取組度合いが異なるといった課題も見られている。このため、各府省においては、先般の政務官会議でも提案があったように、若手職員の意見も幅広く聞きつつ、創意あふれる取組を行っていただきたい。一例だが、会議でペットボトルの水を出すため内部の了解を得るには、上司5人の判子をとらなければならないという事例も紹介されていた。是非、業務の改善・効率化に向けた努力を引き続きお願いしたい。また、他府省の好事例を積極的に横展開していただくことで、働き方改革の取組を一層推進していただきたい。引き続き、積極的な取組をお願いする。
- 野上内閣官房副長官御挨拶
- ・ 昨年に引き続き、今年も官民で積極的な取組が進められ、「ゆう活」の定着に御尽

力いただいたことに感謝する。

- ・ 民間企業については、厚生労働省から労使団体や企業の経営トップに働きかけていただいたほか、労働時間に関する指針にも「ゆう活」の取組について盛り込んでいただいた。各企業における取組が更に広がっていくよう、今年度の取組のフォローアップを行い、指針の内容や「ゆう活」の好事例について、引き続き積極的な周知を行っていただきたい。
- ・ 地方公共団体については、窓口職場を含めた全所属への対象職員の拡大や、定時退庁促進の徹底に取り組むなど、更に「ゆう活」の取組が拡大した。全ての都道府県・政令指定都市、そして500を超える市区町村で実施され、特に市区町村については、昨年より200以上も増えており、「ゆう活」の裾野が着実に広がってきている。
- ・ 今年度の経験を踏まえて日々の働き方を見直していただくことが重要である。各府省には、「ゆう活」期間に限らず、積極的な取組を行い、官民を通じた働き方改革を推進していただきたい。

○杉田内閣官房副長官御挨拶

- ・ 「ゆう活」等の取組を通じて、国家公務員の業務改善に一定の成果が表れてきた。これらを一過性のものとしなないためには、引き続き幹部職員自らの意識改革とリーダーシップが不可欠。
- ・ 来年4月からは、国家公務員にも超過勤務の上限時間が導入される見込み。超過勤務を減らすためには、職員の勤務状況をしっかりと皆様方に把握をしていただいた上で、具体的な業務の見直しが必要であるが、そのような努力が未だ十分に浸透していない。今一度、取組を徹底してほしい。
- ・ また、業務改善の一環としてテレワークやペーパーレス化が進むかどうかは、各府省の幹部の意識次第であり、府省間で取組状況に相当の差が見られる。とりわけペーパーレス化については、年度内を目途に審議会を原則ペーパーレスで開催するという、政府目標の達成に向けて強力に取り組んでほしい。
- ・ さらに、男性職員が育児に積極的に参加することは、女性活躍の促進のためにも不可欠。「男の産休」の5日以上取得率が初めて5割を上回るなど、良い成果も表れているが、他方で、財務省や法務省など着実に結果を出している府省とそうでない府省との差が目立っていることも事実である。「男の産休」の取得率が低い省庁におかれは、現状の打開に向け努力していただきたい。
- ・ 各府省の優れた取組については、11月末に応募締切の「ワークライフバランス職場表彰」において顕彰することとしている。引き続き、働き方改革、女性活躍などの更なる推進のため、皆さんのリーダーシップを是非発揮して取り組んでいただきたい。

以 上